

市民の立場に立った市政とは？その3

今回は、再生可能な資源やエネルギーの問題を自治体でどのように取り組んでいく必要があるのか、について報告したいと思います。

自然豊かな沼田市は

自前の資源で地域おこしを

沼田市面積の8割は山林で、それらの山から流れでる清流と降り注ぐ太陽光。それらを生かした農林業が基幹産業の一つである自然豊かな地域です。

現代は、工業の発達によって排出された二酸化炭素による「地球温暖化」が大問題になっており、日本各地でも温暖化が原因ではないかという「異常気象」で大災害が続いています。特に集中豪雨は場所を選びません。

このような時代に、この地域にある自前の資源を生かした生活や経済活動を活発にし、生活も産業も希望が持てる地域を作る必要があります。民間でも経済的にプラスになると考えて、いろいろな事業が進められていますが、一定の資金力も必要です。市民がこれらの事業にかかわって、成果を上げるには自治体の力が必要です。

沼田市でこれまでに実施している事業は、住宅の太陽光発電設備設置に対する補助、同じく太陽熱温水器設置の補助、ふれあい福祉センターにOMソーラの設置、利南公民館に太陽光発電設備の設置、水道会館に小水力発電設備の設置、利根平川に小水力発電設備の設置計画の推進などが行われてきましたが、他自治体に比べ大きく遅れています。



他の自治体に追いつくためにもメガソーラーやバイオマスの導入を

先ほども述べたように、沼田市には自然の資源・エネルギーがたくさんあります。この資源・エネルギーを利用し産業の活性化につなげようではありませんか。沼田市の南部地域は、年間の日照量が全国でも上位に位置づけられ、太陽光発電に最適な地域です。吾妻町で民間企業が実施している「間伐材」などを利用する「バイオマス発電」にも適した地域です。ペレットストーブの燃料のペレット製造では、沼田市は先進地でした。製造を再開してはどうでしょうか。(右の 1 につづく)

子供を守ろう！放射能学習会に60人が参加！

1月25日、沼田市中心公民館において、「放射能から子どもたちを守る沼田の会」主催、「利根保健生活協同組合」共催で開催された～福島のこと・チェルノブイリのこと放射線の健康への影響について～「振津かつみ医師講演会」に、市民など約60人が参加し、原発事故後の放射能の人体への影響について、専門家の話を聞きました。



オスプレイ帰れ！日米合同演習やめよ！



2. 22群馬県民集会が開催されます

とき：2月22日(土)午後2時集会 3時デモ出発

ところ：高崎城址公園（高崎市役所前）

生健会が新年会

利根沼田生活と健康を守る会がふれあい福祉センターで新年会を開催し、延べ21人が参加しました。

参加した会員それぞれから、「命がぎりぎりの生活から会の支援で、人間としての生活が送れている」などの発言もあり、今年も「貧困」をなくす運動を強めて行こうと誓い合いました。

挨拶する穂刈会長(右端)→



また、畜産業と林業をかみ合わせたバイオマス事業も可能性ががあります。全国でバイオマスタウン構想を作成している自治体は約320、県内では5市町村あります。さらに、バイオマス産業都市に選定されている地域は、全国で8地域(26自治体)あります。歴代沼田市長には何度も提案しましたが聞き入れてもらえませんでした。